シリアについての西側のメディア報道を、その本当の名で呼ぼう：プロパガンダ

【訳者注】「シリア・サリン事件：NY タイムズのもう一つのねじ曲げられた報道」に展開された論証に、まだ納得できないという人は、これを読んでいただきたい。アメリカが曲がったことをするはずがないと、いまだに信じている人がいる。この論文の主旨は、アメリカとその西洋同盟国の基本政策が、手段を選ばず、恥を顧みず、相手国やその指導者を“悪魔化”することであり、ジャーナリズムがこれに完全に協力して、事実とは正反対の印象を世界に押し付けている、ということである。ジャーナリズムの堕落ぶりが、シリアほど徹底した場所は他にないと言っている。この米・西側のつくり出す徹底したサタン的悪は、集団ペドフィリアのそれに通ずるだろう。

Michael Howard
May 3, 2017, Information Clearing House

ウクライナの現行の危機に関する本質的な研究において、ケント大学教授 Richard Sakwa は、こう書いている：――未来のどの時点かで、西側のメディアによるこの紛争の、偏った、イデオロギー的な扱いは、「間違いなく、多くの興味ある学術研究の対象となるであろう。」これは、もし人類が、環境の大破壊か核によるホロコーストで、一掃されなければ、ということだ。とうてい保証できない話である――特に、トランプ政府が荒れ狂い、クルーズ・ミサイルを飛ばし、無敵艦隊を送り、MOAB（最大の爆弾）を落とし、しかもそのすべてが、大統領の小さな手がある大きなものの縮小だということを、気づかせないでいるのだとすれば。

しかし、サクワ教授の言うように、我々の有名な新聞によるウクライナの内戦の報道は、絶望的に事実を混乱させるものだが、それはシリアについての報道の足元にも及ばない。ここでは**本当のジャーナリズムの影さえ、とうの昔に見られなくなっている。シリアは、西側の主流メディアが、国家権力に奉仕するために、どれほど身を落とすことができるかを、証明**

するものである。それはジャーナリズムの規範が、地球的ジハーディストのように、**死にに行く場所である。腐りきったプロパガンダが、大手を振って歩いている**。正直な観察者は呆然とするのみである。（強調訳者）

Stephen Kinzer はこう書いた：――「シリア戦争の扱いは、アメリカの新聞報道の歴史の、最も恥ずかしいエピソードの一つとして記憶されるであろう。」一方、Robert Fisk は、この戦争は「世界で最も報道の乏しい戦争だ」と言った。Patrick Cockburn も同じような憂慮を表明して、「西側のメディアは、この野蛮な戦争において、片方のプロパガンダのための伝導管に成り下がってしまった」と書いた。ここには深刻な意味が籠められている――

> ニュース組織は、結局は、ジハーディストやそのシンパたちによって、情報を口移しにされるだけで、彼らは、独立した観察者が、彼らの支配する領域には入れないようにしている。メディアは、このような汚れたソースからの情報を反芻することによって、アルカーイダのようなグループに、ジャーナリストを殺したり誘拐したりするあらゆる動機を与え、それによって彼らは、勝手に満たすことのできるニュースの真空空間を作り出し、これを利用している。

そのように、イデオロギーに引き回される西側メディアは、シリアの武装反政府勢力と手を組んで、真理を報道しようとする人々を誘拐し殺せばカネになるような、状況をつくり出すのに寄与している。こうして彼らは、**考え得る最も言語道断なやり方で、彼らの職業の基準を踏みにじっている**。そして、あなたは、彼らがそれを全く恥じていないことに気づいているだろう。こうしたことを、立ち止まって考えてみることもない。彼らは、来る日も来る日も、プロパガンダを吐き出し続け、その結果がどうなるかを反省することもない。一つの物語が崩れると、彼らは次の物語に移る。最も重要な、おそらく唯一の彼らの関心事は、大衆の考え方を操作して政府の方針に合わせることである。その先が、どうなろうと知ったことではない。

シリアに関連する、メディアの反真理やあからさまなウソのリストは、あげればキリがない。化学兵器を取ってみよう。このニュースで、多くの事件が取り上げられている。そのほとんどは、この野蛮な攻撃に死傷者の伴わないものである。そしてそのすべてが政府のやったことにされる。しかし国連は、ISIS を含めたテロ集団が、市民やシリア兵に対して化学兵器を使った多数のケースを記録している。国連はまた、反政府兵士が、シリア軍を“はめる”ことを狙って、化学兵器攻撃をヤラセているのを現場で目撃した人たちの、証言を聞いている。そして、西側のあらゆる主要なメディアとは反対に、国連は、2013 年 8 月の恥ずべきサリン攻撃を、アサドがやったとは**言っていない**。彼らは調査を行った後で、「神経作用サリンの含まれた地対地ロケットが、シリア・アラブ共和国内の派閥の一つによって用いられ

た」と言っているだけである。犯人は同定されていない。しかし、そんなことはどうでもいい。俺たちは、アサドをあらゆる化学兵器事件の犯人にしたいのだ。したがって彼が犯人なのだ。トランプもトマホークを発射して、怒ったではないか。

それから、いわゆるホワイト・ヘルメット団、あのアカデミー賞のドキュメンタリー賞をもらった団体がいる。この団体は、ボランティアで、不偏不党のレスキュー組織だと宣伝され、“シリア政府の野蛮さ”に対する英雄的レジスタンスの象徴になった。しかし見かけは騙すことがあり、これはその典型的なものだ。いくつか目立つ事実がある――ホワイト・ヘルメット計画は、シリアでなく、トルコにおいて、かつてのイギリスの軍事請負業者 James Le Mesurier によって考案された。ホワイト・ヘルメット団は、もっぱら“反乱軍”の占領している地域の中だけで活動しており、これは彼らが、アルヌスラ（アルカーイダ）のような集団と一体であることを意味する。ホワイト・ヘルメット団は、米、英、その他の西側政府によって、何千万ドルというカネを支払われている。ホワイト・ヘルメット団は、NATO の強制する飛行禁止ゾーンを、シリアに設けることを、繰り返し要請している（リビアを考えよ）。ホワイト・ヘルメット団は、国連がシリア政府の合法性を認めたと言って、非難している。中立の NGO（非政府組織）にしては奇妙な行動ではないか？　注目すべきことは、この団体が、プロパガンダ目的で、ヤラセの救出ビデオを作っているとして、非難されていることである。当然、彼らは憤然として否定する。にもかかわらず、ホワイト・ヘルメット団が、全く文字通り、“マネキン・チャレンジ”の一部として、救出をやってみせているビデオがある（出演者が人形のように一斉に静止すること）。あなたの解釈次第だが。
https://www.youtube.com/watch?v=Zgl271A6LgQ

いずれにせよ、ホワイト・ヘルメット団が、彼らの自称する通りのものでないことは明らかだ。オスカー賞を受賞した Netflix“ドキュメンタリー”は、けばけばしい広告か、調査ジャーナリストの Rick Sterling が言ったように、“つくり上げ情報マーシャル”でしかないものである。このフィルムが撮影されたのはトルコで、シリアではなく、そこに有益な情報は何もない。ただ、ホワイト・ヘルメットの一人が、3 か月間、反政府軍兵士だったので、中立とは言い難いと言っているのは、例外かもしれない。それはまた非常に退屈なドキュメンタリーだが、それは別問題である。このような見え見えのプロパガンダ組織についての、このような見え見えのプロパガンダ・フィルムが、アカデミー賞を獲得したということは、本来なら、ちょっとしたスキャンダルになるところである。しかし我々は、NY タイムズが皮肉に主張するように、フェイク・ニュースの時代に生きている。
https://www.pastemagazine.com/tag/Netflix
https://www.pastemagazine.com/tag/The+New+York+Times

ホワイト・ヘルメット団についての、十分に包括的な見方については、Max Blumenthal が

最近 *Alternet* に書いた記事をご覧になるとよい。

他に何があるか？　悪名高い“シーザー”詐欺があった。これは、自称シリア軍からの離脱者で、コードネームを“シーザー”という元軍隊付き写真家が、シリア政府は、1 万 1,000 名の政治犯を拷問して死に至らしめた写真証拠をもっている、と主張した事件である。確かに、5 万 5,000 ほどの写真の半分は、死んだり傷つけられた、シリア兵とプロ政府民兵の写真である。それらは戦争写真である。戦闘の両サイドからの大量の死体が、ある者は自動車爆弾によって吹き飛ばされ、ある者は叩かれ痩せ衰えて、ドキュメンタリーの証拠として写真に撮られた。リック・スターリングが昨年書いたように、「これらの写真は広範囲な死者たちを示していて、シリア兵から、シリア民兵メンバー、反政府兵士、戦闘地帯に閉じ込められた市民、野戦病院の通常の死者に至るまで、あらゆる死者が含まれている。」そのある者は、アサドの安全保障軍によって拷問されたのだろうか？　それは間違いないだろう。しかし、この物語は西側の新聞によって、ひどく間違って伝えられ、5 万 5,000 の写真は、シリア政府の経営するナチ式の死のキャンプのネットワークが存在した証拠だ、というところまで我々を信じさせるように導いた。そんなものは存在しなかった。

残虐というプロパガンダについて言えば、最近これはずいぶんシックなもので、あの有名な BBC も 2013 年にこれに参加し、「シリアの子供たちを救う」という報道番組によって、ジャーナリズムの誠実さを風に飛ばしてしまった。これは、焼夷弾空襲の結果を見せると称するドキュメンタリーだった。報道によると、シリア政府は、アレッポの辺鄙な地域で、ナパーム弾かテルミット弾を用いて学校の子供たちを攻撃した。近くの病院で撮ったという、その結果を示すフィルムは、火傷の犠牲者と言われる子供たちが、明らかにカメラに映らない人々の指図を受けている、極端に奇妙なしろものである。この物語は細かく調べられ、結局は、ジャーナリストのロバート・スチュアートによって、イカサマとして暴かれた。その時点で BBC は、著作権の問題をもち出して、ユーチューブから、このフィルムのすべての痕跡を除去し始めた。正式な撤回は行われず、BBC の永遠の恥となった。しかし、彼らが思慮分別を示したことで、おそらく私は彼らを咎めるべきではないであろう。結局、もし BBC が、シリア紛争についての、あらゆるウソや不正確な報告を撤回し始めたら、残るものは、ほとんどなくなるからである。https://bbcpanoramasavingsyriaschildren.wordpress.com/

フェイク・ニュースが極点に達したのは、昨年末近く、シリア軍がロシアの空からの援助を受けて、当時、アルヌスラやワッハブ派の暴徒に占領されていた、東部アレッポを包囲したときだった。新しい戦争犯罪がほとんど毎日、報道された。“アレッポの最後の病院”の破壊が 12 回も報道された。女性たちは強姦されるのを避けて、集団自殺をしていた（ソース：“反政府軍”司令官）。アサドとプーチンは、25 万の市民を飢えによって、そして/または、爆撃によって殺していた。我々はその数字を何度も何度も聞かされた――百万の 4 分の 1

の人々が、ジハーディストの飛び地領土に閉じ込められている、と。それは我々の頭に、宗教的教えのように叩き込まれた。本当の数字が 10 万（あるいは多分 4 万）と分かったとき、誰もあまり気にかけないようだった。おそらくあの心理学者が言う「動機づけられた忘却」、防衛メカニズムが働いていたのだろう。

我々の記憶は実に選択的なものだ。この戦闘には、我々が完全に忘れていない、少なくとも一つの相があると思える――すなわち Bana Alabed、別名“アレッポの顔（または声）”である。この 7 歳の少女は、この都市が徐々に崩壊していく様子を、ツィッターを通じて語ることによって、そのあだ名を得た。彼女がその母親によって、悲哀を伝える道具として冷笑的に利用されていたということは、大した問題ではない。彼女は明らかにその物語をコントロールしており、あるときには、自分がこの 7 歳の娘に代わってツィートしていることを、明らかに忘れている。バナ、あるいはバナの思想は、有益なプロパガンダとして役に立っている。ご存じの通り、西洋の人々は、戦争がいかに愚劣かを知るためには、死んだ、あるいは苦しんでいる子供たちを見せてもらう必要があるのだが、同時に、人道主義の名において、もう一つの流血の米軍の冒険を支持するにも、その必要がある。なぜなら、そのような子供を見て“何かしなければ”と感じないような人間は、怪物だからである。

そんなふうに感情は働く。だから、あの海岸に打ち上げられた、死んだ 3 歳の亡命者の写真や、救急車の後ろに坐っている埃まみれの少年の写真、あるいはトランプの“美しい赤ん坊”という言葉が、効くのである。もちろん、人道主義的なエスカレーションの効果は、万一それが実現しても、しかるべく無効にされる。例えば我々は、アメリカの侵略の結果として殺された、イラクの子供たちの写真を、決して見ることはなかった。また、モスルの包囲の下で生きている、ある 7 歳の子供のツィッターによる物語にも、我々は付き合わなくなった。そこは、アメリカの爆弾が、市民居住区に雨のように降り続けているからだ。それはビジネスには役立たないだろう。しかしバナはビジネスに役立つ。あまりにも役立つので、実は、彼女は Simon & Schuster と出版契約をしている。あなたはここで、トワイライト・ゾーンに迷い込んでしまう。http://www.cnn.com/2017/04/14/middleeast/bana-alabed-memoirs-syria/